

藤田林吉田

西内原林高家

志賀林志賀 (通林谷口)

の四ヶ林六部落 和歌山の南方約十七里 和歌山より紀西線に乗って約二時間半、紀伊御坊駅を下車すれば、ここが争議の中心地、湯川林である。争議地はここを中心として海岸より南は日高川まで、南に吉田支那、小松原支那、財部支那東財班、北に財部支那、西富安支那、西内原支那、谷口支那がある。日高平野の平坦部一帯に争議田は存在してゐる。温度は南国に比して高いが雨量、湿度共に水作りに適し、冬期南紀気候が西に風が流れるために、大勢の如き莖の、ゆび水作物は往々倒れることはある。湯川林の中にも日高平野の中枢を占めて和歌山縣屈指の米産林である。

の耕地の状況

志賀林、湯川林の一部を除く外は二毛作田で用水の如きも吉田、小松原、財部は日高川に求めて旱害の憂なく、志賀は西川に求めてゐるが夏期河水涸渇し用水池の不完備のため連年旱災に及びやがて、その上西川は豪雨の度には河水氾濫して川沿いの約八丁程は無收穫状態も珍らしくない。西富安、西内原の用水はどの殆どを用水池に求めてゐるが、水不足は殆ど例年である。養羊田百十八丁歩、その殆どが平坦部に在るか耕地整理された附は一ヶ附

もたない

財部 小松原の一部 志賀の一部は日高平野の窪地であるためか、螟蟻の被害少からぬものがある。

二、関係小作人の状態

和歌山縣議務行統計要覽に依るなりは、争議関係林の地主、自作、自小作、小作の比率は大体次の如くである。

- 地主 四%
- 自作農 一四%
- 自作兼小作農 四五%
- 純小作農 三二%
- 其他 五%

の関係小作人数

この中関係小作人は百九十三名、各支那別に示せば次の通りである。

- 谷口支那 六十二名
- 西内原支那 十五名
- 西富安支那 二十七名
- 財部支那 四十三名
- 小松原支那 十四名